

07 共に支え合う地域福祉の推進			
主管課名	福祉健康部 福祉総務課		
主管課長名	風間 雄二郎	電話番号	042-481-7104
関係課名 （組織順）	文化生涯学習課，協働推進課，生活福祉課，高齢福祉担当，介護保険担当，障害福祉課，健康推進課，建築指導課		
目的	対象	市民，地域活動団体，福祉サービス事業者，福祉団体	
	意図	地域で役割分担して暮らしを支え合うことができる	
施策の方向	だれもが住み慣れた場所でいきいきとした生活をおくることができるよう，地域でともに認め合い，助け合い，支え合うまちづくりを推進し，住民主体の地域福祉の充実を図ります。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和元年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
<p align="center">施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）</p>	
<p>（07-1 地域におけるトータルケアの推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域共生社会の実現に向けて，8つの福祉圏域を基盤として，地域福祉コーディネーターを中心に，地域におけるトータルケアを推進 成年後見制度の利用促進を図るため，多摩南部成年後見センター構成5市で「成年後見制度利用促進基本計画」を策定し，5市共通の目標や目標実現に向けた施策の方向性等を定めた。 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <p>■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域福祉計画」，「高齢者総合計画」，「障害者総合計画」のいわゆる福祉3計画に基づく福祉施策の展開 地域福祉コーディネーターを2名増員して8つの福祉圏域全てに配置し，多機関協働による包括的な支援体制の構築を推進 喫緊の福祉課題として顕在化した「8050 問題」に対し，関係機関の連携による支援体制を早期に構築するため，「相談支援包括化推進会議」に専門部会を設置し，複雑化・多様化する地域課題への取組を推進 3年に1度実施する「調布市民福祉ニーズ調査」において，はじめて「専門職懇談会」を実施し，包括的な支援に係る意識等を共有 成年後見制度の利用促進を図るため，5市で「成年後見制度利用促進基本計画」を策定するに当たり，庁内関係各課と連携 社会福祉協議会と連携を図りながら，住民主体の交流の場である「ひだまりサロン」等の市民の主体的な活動や団体の交流機会の充実等を支援する事業を展開 	
<p>（07-2 住民が主体的に地域課題を把握して解決を試みる体制づくり）</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域力強化を図るため，地域福祉コーディネーターの地域支援の取組を中心として，高齢者等の居場所づくりや地域活動等の立ち上げ支援等の幅広い活動の支援を行い，地域における支え合いの仕組みづくりを推進 福祉人材育成センターにおいて，新型コロナウイルス感染症の影響で中止した研修もあったが，市内障害福祉サービス等事業所への市補助金と連携した取組（補助要件に研修受講を追加）により，専門研修の受講者が増加 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <p>■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域福祉コーディネーターや地域支え合い推進員，市民活動支援センターやボランティアコーナーが連携・情報共有を図りながら，地域における支え合いの体制づくりやボランティア活動の活性化を支援 社会福祉協議会と連携を図りながら，住民主体の交流の場である「ひだまりサロン」等の市民の主体的な活動や団体の交流機会の充実等を支援する事業を展開（再掲） 専門性を備えた福祉人材の確保，育成を図るため，福祉人材センターを拠点とする研修，就労支援等の総合的な事業展開を支援し，福祉・介護ニーズに的確に対応できる人材の安定確保に向けた取組を推進 	
<p>< 令和元年度における施策の成果についての総括 ></p> <p>基本計画及び地域福祉計画に基づき，8つの福祉圏域全てに地域福祉コーディネーターを配置したほか，前年度に設置した相談支援包括化推進会議の本格実施に着手し，多機関協働による包括的な支援体制の構築や地域力強化の取組を推進した。また，多摩南部成年後見センター構成5市の協働により，成年後見制度の利用促進に係る共通の基本計画を策定し，地域共生社会の実現に向けた取組を進めた。</p>	

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標, ◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	地域福祉コーディネーターの活動件数【☆】	1万958 (H29)	件	1万 7436	2万
2	ひだまりサロン登録団体数【☆】	107 (H29)	団体	105	140
3	福祉人材育成事業の利用者数【◎】(目標値は令和元年度)	延べ500 (H27見込)	人	延べ 597	延べ600 以上
【備考】					

2 基本計画事業取組実績

計画コード	25	重点P	③	高齢者・障害者にやさしいだれもが安心して住み続けられるまち	
事務事業	地域福祉コーディネーター事業の推進				
所管部署	福祉健康部・福祉総務課・地域福祉係				
活動内容	計画目標	令和元年度			
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)	
活動内容	○地域福祉コーディネーター事業の推進 ○調布市地域福祉計画に基づいた市内全域での設置	○地域福祉コーディネーターによる支援 ○地域福祉コーディネーターの拡充配置(2人増員,計8圏域に配置) ○調布におけるトータルケアシステムの推進(相談支援包括化推進会議の開催)	○地域福祉コーディネーターによる支援 ○地域福祉コーディネーターの拡充配置(2人増員,計8圏域に配置) ○調布におけるトータルケアシステムの推進(相談支援包括化推進会議の開催)	○地域福祉コーディネーターによる支援 ○地域福祉コーディネーターの拡充配置(2人増員,計8圏域に配置) ○調布におけるトータルケアシステムの推進(相談支援包括化推進会議の開催) 本会議 2回 部会 4回 8050専門部会 6回	
	事業費(千円)	55,779	55,779	53,557	
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0	

計画コード	26	重点P	③	高齢者・障害者にやさしいだれもが安心して住み続けられるまち	
事務事業	福祉人材育成事業の推進				
所管部署	福祉健康部・障害福祉課・サービス支援係				
活動内容	計画目標	令和元年度			
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)	
活動内容	○ホームヘルパー養成研修(介護職員初任者研修,重度訪問介護従事者養成研修,行動援護従事者養成研修),知的障害者移動支援従事者養成研修,ホームヘルパーフォローアップ研修・市民向け普及啓発事業,福祉ボランティア養成講座等,支援者向け講座・講演会等	○福祉人材の育成 ・市民育成講座 ・専門性向上研修 ・地域福祉の普及啓発 ・福祉業務のネットワーク構築	○福祉人材の育成 ・市民育成講座 ・専門性向上研修 ・地域福祉の普及啓発 ・福祉業務のネットワーク構築	○福祉人材の育成 ・市民育成講座 ・専門性向上研修 ・地域福祉の普及啓発 ・福祉業務のネットワーク構築	
	事業費(千円)	19,926	19,926	18,614	
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0	

08 高齢者福祉の充実			
主管課名	福祉健康部 高齢者支援室		
主管課長名	松井 佳孝	電話番号	042-481-7125
関係課名 （組織順）	産業振興課、スポーツ振興課、福祉総務課、介護保険担当、障害福祉課、健康推進課、保険年金課、住宅課、公民館		
目的	対象	おおむね65歳以上の市民	
	意図	住み慣れた地域で安心して生きがいを持ち、健康的に暮らし続けることができる	
施策の方向	高齢者になって年齢を重ねても、住み慣れた地域で安心して生きがいを持って元気にいきいきと暮らせる仕組みづくりや、ひとり暮らしでも、また介護や医療が必要でも、安心して住み続けることができる地域づくりを推進します。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和元年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
<p>（08-1 地域包括ケアのネットワークの構築）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10箇所の地域包括支援センターにおいて、高齢者やその家族の相談に対応するとともに、必要なサービスにつながるための支援や地域ケア会議等の開催など、地域福祉のネットワーク構築を行った。 ・地域包括支援センターの担当区域を福祉圏域に統合するためのプロポーザルを実施し、事業者を選定した。 ・「ちょうふ在宅医療相談室」において、在宅医療・介護に関わる相談を受け付けたほか、「ちょうふ在宅療養推進会議」を開催し、医療・介護関係者の情報を共有した。 ・認知症初期集中支援チームを活用し、認知症高齢者の支援を行ったほか、認知症の行動・心理症状を緩和するための認知症ケアプログラムを実施し、認知症対応力の向上を支援した。 ・見守りネットワーク事業では、地域での支援を必要としている高齢者を速やかに把握し、継続的な相談支援を行うとともに、事業の周知を行うための取組を継続した。 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <p>■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他の相談支援機関と連携した包括的な相談支援体制の構築に向け、担当区域の見直しについて関係機関と情報共有を行った。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会資源（自治会、商店会等）の協力を得て、「ソフトな見守り・ゆるやかな働きかけ」をモットーに、高齢者等を周囲から見守る、見守りネットワーク「みまもっと」を市内全域に展開し、見守り体制を構築した。 	
<p>（08-2 生活支援の展開と介護予防の取組）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・元気な高齢者が地域の支え手として主体的に活動できるよう、活動場所や集いの場の確保に努めるとともに、高齢者の生活支援に資する地域資源を見える化した。 ・公益社団法人調布市シルバー人材センターに対して補助金を交付し、高齢者の就業機会の拡大と、社会参加や生きがいづくりを推進した。 ・老人クラブ35団体に対して補助を実施した。 ・公民館では、高齢者の社会参加を促すため、高齢期の生活に役立つ健康・福祉・生きがいなどの高齢者教育事業を実施した。 ・高齢者学級の実施を通して高齢者の自主的な共同学習を援助した。 ・市民を対象として実施している「リフレッシュ体操スクール」全84コースのうち54コースについては、特に高齢者の参加が多く、腰痛予防体操や筋力トレーニングなどを取り入れて実施した。 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <p>■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に向け、関係課と事業内容やスケジュールについて情報共有を行った。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域支え合い推進員の配置により、地域活動の活性化と運営の支援をした。 	
<p>（08-3 介護保険事業の円滑な運営）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・介護保険事業の円滑な運営については、第7期調布市高齢者総合計画に基づき事業を展開した。 ・介護サービスの質の向上については、介護支援専門員の質の向上に向け、スーパービジョン研修会を実施したほか、介護支援専門員や主任介護支援専門員を対象にした研修会を実施するなど支援体制を拡充した。 ・地域密着型サービスの整備については、認知症対応型共同生活介護（認知症高齢者グループホーム）を1箇所開設した。小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護については公募を実施した。 	

①横断的連携による施策の推進

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

・市内のサービス事業者団体である介護保険サービス事業者調布連絡協議会、また、介護支援専門員（ケアマネジャー）の組織である介護支援専門員調布連絡協議会と年数回会議を行い、情報共有を行った。

<令和元年度における施策の成果についての総括>

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、年度末に予定していた関係機関との会議や介護予防事業は中止となってしまったが、介護予防に取り組む団体数は順調に増えており、地域包括支援センターの認知度も上がってきている。令和2年度からは、感染拡大防止に努めつつ、高齢者が介護予防に取り組める仕組み作りや会議の実施方法について検討する必要がある。

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標，◎：総合戦略における指標】	基準値	単位	実績値	目標値
	(基準年度)		令和元年度	令和4年度
1 地域包括支援センターを知っている高齢者の割合【☆，◎】	56.3	%	58.1	65.0
2 介護予防に取り組む団体数【☆】	187	団体	236	230
3 地域密着型サービス事業所数（地域密着型通所介護を除く） 【☆，◎】	19	箇所	20	22 (R2)
4 健康ではりのある生活のため、趣味活動や地域活動に参加している高齢者の割合【◎】（目標値は令和元年度）	41.8 (H27)	%	36.3	50.0以上
【備考】				

2 基本計画事業取組実績

計画コード	27	重点P	③	高齢者・障害者にやさしいだれもが安心して住み続けられるまち		
事務事業	地域包括支援センターの充実					
所管部署	福祉健康部・高齢者支援室高齢福祉担当・支援センター係					
活動内容	計画目標	令和元年度				
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)		
活動内容	○地域包括支援センターの運営 ○介護保険法の見直しに合わせた適正な設置・運営	○地域包括支援センターの運営 ・福祉圏域に基づく担当圏域の再編 ○在宅医療・介護連携事業の実施	○地域包括支援センターの運営 ・福祉圏域に基づく担当圏域の再編 ○在宅医療・介護連携事業の実施	○地域包括支援センターの運営 ・福祉圏域に基づく担当圏域の再編 ○在宅医療・介護連携事業の実施	○地域包括支援センターの運営 ・福祉圏域に基づく担当圏域の再編 ○在宅医療・介護連携事業の実施	
	事業費 (千円)	346,629	346,629	286,755		
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0		

(施策08 高齢者福祉の充実)

計画コード	28	重点P	-	-
事務事業	見守りネットワークの推進			
所管部署	福祉健康部・高齢者支援室高齢福祉担当・支援センター係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○10箇所の全ての地域包括支援センターに担当者を配置し地域包括支援センター事業としてPRと通報への対応を実施 ○協定団体、協力団体を拡大し、更に連携を強化	○見守りネットワークの実施(高齢者支援室、地域包括支援センター)	○高齢者支援室及び地域包括支援センター10箇所で見守りネットワークを実施 ○システム改修 ○徘徊高齢者SOSネットワーク構築の検討	○高齢者支援室及び地域包括支援センター10箇所で見守りネットワークを実施 ○システム改修 ○徘徊高齢者SOSネットワーク構築の検討 ○見守りサポーター養成講座の実施方法の見直し
事業費 (千円)		49,881	49,881	47,984
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

計画コード	29	重点P	-	-
事務事業	認知症対策の充実			
所管部署	福祉健康部・高齢者支援室高齢福祉担当・在宅サービス係/支援センター係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○認知症ガイドブックの活用・周知。 ○認知症初期集中支援事業の実施により初期の支援を集中的に行う。 ○日本版BPSDケアプログラムを公設の事業所等で試行的に実施・検証。 ○地域における認知症カフェ等通いの場を周知。	○認知症支援対策の実施 ○認知症総合支援事業の実施 ○認知症初期集中支援事業の実施 ○認知症徘徊高齢者家族支援サービス事業の実施	○認知症支援対策の実施 ○認知症総合支援事業の実施・認知症ケアプログラム試行 ○認知症初期集中支援事業の実施 ○認知症徘徊高齢者家族支援サービス事業の実施	○認知症支援対策の実施 ○認知症総合支援事業の実施・認知症ケアプログラム試行 ○認知症初期集中支援事業の実施 ○認知症徘徊高齢者家族支援サービス事業の実施
事業費 (千円)		15,007	15,007	12,356
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

計画コード	30	重点P	③	高齢者・障害者にやさしいだれもが安心して住み続けられるまち
事務事業	介護予防・日常生活支援総合事業の展開			
所管部署	福祉健康部・高齢者支援室高齢福祉担当・計画係・在宅サービス係・支援センター係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○要支援・要介護状態を未然に防ぎ、高齢者の生活の質を向上	○一般介護予防事業の実施 ○介護予防・日常生活支援総合事業の実施 ○生活支援体制整備事業の実施	○一般介護予防事業の実施 ○介護予防・日常生活支援総合事業の実施 ○生活支援体制整備事業の実施	○一般介護予防事業の実施 ○介護予防・日常生活支援総合事業の実施 ○生活支援体制整備事業の実施
事業費 (千円)		594,453	594,453	541,503
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

計画コード	31	重点P	-	-
事務事業	地域密着型サービスの整備			
所管部署	福祉健康部・高齢者支援室介護保険担当・介護給付係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○市内におけるサービス需要と供給(事業所の数、種類等)のバランスを考慮し、整備を推進	○地域密着型サービスの開設(認知症高齢者グループホーム 1箇所) ○地域密着型サービスの開設(小規模多機能型居宅介護 1箇所)	○地域密着型サービスの開設(認知症高齢者グループホーム 1箇所) ○地域密着型サービスの開設(小規模多機能型居宅介護 1箇所)	○地域密着型サービスの開設(認知症高齢者グループホーム 1箇所) ○小規模多機能型居宅介護及び看護小規模多機能型居宅介護整備運営事業者公募
	事業費 (千円)	21,600	21,600	123,702
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

計画コード	32	重点P	-	-
事務事業	特別養護老人ホーム等の整備			
所管部署	福祉健康部・高齢者支援室高齢福祉担当・計画係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○特別養護老人ホーム整備の補助	○特別養護老人ホーム建設費補助(債務負担解消) ○新規特別養護老人ホーム開設(1箇所)	○特別養護老人ホーム建設費補助(債務負担解消) ○新規特別養護老人ホーム開設(1箇所)	○特別養護老人ホーム建設費補助(債務負担解消)4箇所(内1箇所令和元年度で助成終了) ○新規特別養護老人ホーム令和元年9月開設(1箇所)建設費補助(令和元年~令和20年度)
	事業費 (千円)	49,665	49,665	49,665
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

09 障害者福祉の充実			
主管課名	福祉健康部 障害福祉課		
主管課長名	水谷 由紀	電話番号	042-481-7088
関係課名 (組織順)	産業振興課, スポーツ振興課, 子ども政策課, 保育課, 子ども家庭課, 児童青少年課, 福祉総務課, 高齢福祉担当, 子ども発達センター, 健康推進課, 住宅課, 指導室, 社会教育課		
目的	対象	障害のある市民とその家族	
	意図	安心して暮らし, 社会に参加することができる	
施策の方向	障害者に, 一人一人のニーズに応じた支援, どのライフステージにも対応した切れ目のない支援を行い, 共に暮らす地域社会の実現を目指す中で, その人らしい自立した生活の充実に努めます。		

< 施策と関連するSDGsの目標 (ゴール) >



1 令和元年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション (①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信)	
<p>(09-1 障害者と家族の地域生活支援の充実)</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者の生活を地域全体で支えるため, 相談や緊急時の受入れ, 人材の確保・養成, 地域の体制づくり等必要な機能を備えた「地域生活支援拠点」を, 地域の複数の機関が分担して担う「面的な体制」として整備 医療的ケアへの支援体制の充実のため, 医療と福祉両面におけるコーディネートや相談を行ったほか, 在宅レスパイト事業として, 訪問看護師が家族に代わり医療的ケアを行うことで, 家族の負担軽減を実施 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <p>■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」</p> <ul style="list-style-type: none"> 複合的な問題を抱える個人や家庭に対応するため, ケースワーカーの担当地区を福祉圏域に合わせ, 顔の見える環境づくりを推進 	<p>(09-2 生涯にわたる支援と住み続けられる地域づくり)</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域共生推進ふれあい商店等補助事業」を実施し, 市内商店等の入り口の段差解消や手すりの設置等に加え, コミュニケーションボード等の購入費を補助し, ソフト・ハード両面のバリアフリー化を促進 地域での自立した生活を支援するため, 新たにグループホーム2箇所の開設費を支援 余暇活動支援の充実として, 余暇活動プログラム「ほりてーぶらん」を6回実施したほか, FC東京と連携して行う「あおぞらサッカースクール」を, 新たに実施した交流会を含め計10回開催。また, 知的障害のある方への社会体験の機会として, 「杉の木青年教室」を11回, 「遊ing」を8回, 「のびのびサークル」を20回実施 障害者就労支援センター(ちょうふだそう, ライズ)において利用者に対する就労面・生活面の支援を実施 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 障害者スポーツの振興のため, 東京都及びスポーツ振興課と連携し, 障害分野とスポーツ分野の関係団体が一堂に会し, 課題抽出や解決方法を検討する協議体を設置・運営 ■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」 誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるため, 調布市商工会と連携し, 店舗の段差解消をはじめとしたバリアフリー化に取り組んだほか, 調布市商工会の会員向けに差別解消に関する講習会を実施 ■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 誰もが暮らしやすいまちづくりを進めるため, 調布市商工会と連携し, 店舗の段差解消をはじめとしたバリアフリー化に取り組んだほか, 調布市商工会の会員向けに差別解消に関する講習会を実施(再掲) ■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」 障害者のスポーツ参加向上のため, 「あおぞらサッカースクール」について, 新たに交流会を実施 心のバリアフリー推進のため, 障害者地域自立支援協議会講演会「誰もがオリ・パラを楽しめるまち～障害当事者が語る暮らしやすさ～」の開催に向けて準備を進めてきたが, 新型コロナウイルス感染症の影響で中止 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 市と(株)セブン-イレブン・ジャパン, (株)イトーヨーカ堂による地域活性化包括連携協定に基づく取組として, セブンイレブン飛田給品川通り店において, 市内作業所の焼き菓子の販売。調布市福祉作業所等連絡会が発行している「わくわく」により, 取組を紹介

<令和元年度における施策の成果についての総括>

- ・障害福祉サービスの利用者が年々増加している中、より一体的、効果的な支援体制を構築するため、「地域生活支援拠点」(面的な体制)の整備により、地域の居住支援機能を担う各機関の連携強化を図った。
- ・医療的ケアにおける重症心身障害児(者)在宅レスパイト事業について、周知を進めてきたこともあり、利用登録者数、延べ利用回数とも前年度より増加した。
- ・地域共生推進ふれあい商店等補助事業を実施し、補正予算による予算の増と補助率・補助上限額の見直しを行った結果、33件の利用があり、誰もが暮らしやすいまちづくりに寄与した。

まちづくり指標		基準値	単位	実績値	目標値
【☆：基本計画におけるまちづくり指標，◎：総合戦略における指標】		(基準年度)		令和元年度	令和4年度
1	障害者相談支援事業，こころの健康支援センターの相談利用者数【☆】	1,886 (H29)	人	1,951	2,400
2	障害者が住みやすい地域だと感じている割合【☆】	83.8 (H30)	%	78.8	85.0
3	障害者就労支援センターの支援を受けている一般就労者数【◎】 (目標値は令和元年度)	152 (H26)	人	351	210

【備考】「障害者が住みやすい地域だと感じている割合」は、基準値を下回っているが、基準値を設定する際は窓口調査の回答であったのに対し、実績値は3年に一度の調布市民福祉ニーズ調査での回答結果となっていることが要因と考える。

2 基本計画事業取組実績

計画コード	33	重点P	③	高齢者・障害者にやさしいだれもが安心して住み続けられるまち	
事務事業	障害児・者医療的ケア支援事業				
所管部署	福祉健康部・障害福祉課・相談係				
活動内容	計画目標	令和元年度			
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)	
活動内容	○障害児・者医療的ケア体制支援事業 ・相談支援，医療・福祉間のコーディネート ・連絡会の実施 ○重症心身障害児・者在宅レスパイト事業 ・訪問看護事業所との委託契約 ・対象者への周知	○障害児・者医療的ケア支援事業の実施 (相談支援，医療・福祉間のコーディネートなど)	○障害児・者医療的ケア体制支援事業 (相談支援，医療・福祉間のコーディネート，関係機関連絡会，研修実施等)	○障害児・者医療的ケア体制支援事業 ・看護職1名継続配置 ・医療的ケア児・者の支援のための庁内関係職員向け学習会の実施 ・関係者連絡会 (新型コロナウイルス感染症の影響で中止) ○重症心身障害児・者在宅レスパイト事業 ・委託契約事業所 4箇所	
		○重症心身障害児・者在宅レスパイト事業の実施	○重症心身障害児・者在宅レスパイト事業の実施		
事業費 (千円)		6,076	6,076	3,711	
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0	

計画コード	34	重点P	③	高齢者・障害者にやさしいだれもが安心して住み続けられるまち	
事務事業	障害者の就労支援				
所管部署	福祉健康部・障害福祉課・サービス支援係				
活動内容	計画目標	令和元年度			
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)	
活動内容	○障害者の就労支援の充実 ・障害者雇用を考える企業の開拓 ・障害者・企業の担当者と連携し，職場定着支援を充実 ・障害者の自立と社会参加の機会を増やす支援の実施	○就労支援の実施	○就労支援の実施	○就労支援の実施	
事業費 (千円)		64,172	64,172	62,906	
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0	

(施策 09 障害者福祉の充実)

計画コード	35	重点P	-	-
事務事業	余暇活動支援の充実			
所管部署	福祉健康部・障害福祉課・サービス支援係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
活動内容	○実行委員会の運営 ○スポーツに関わる、楽しむためのプログラムの企画、運営、実施 ○市内作業所やスポーツ推進員、地域ボランティアとの連携、交流 ○プログラムを通じた障害理解の促進（啓発）	○日中一時支援事業の実施 ・報酬単価の見直し	○日中一時支援事業の実施 ・報酬単価の見直し	○日中一時支援事業の実施 ・事業内容及び報酬単価の見直し
		○余暇活動支援事業（ほりでーがらん）の実施	○余暇活動支援事業（ほりでーがらん）の実施	○余暇活動支援事業（ほりでーがらん）の実施
		○フットサル事業の実施 ・実施回数増加	○フットサル事業の実施 ・実施回数増加	○フットサル事業の実施 ・実施回数増加
事業費（千円）		21,801	21,801	18,593
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

計画コード	36	重点P	-	-
事務事業	発達障害児支援事業			
所管部署	福祉健康部・子ども発達センター・発達支援係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
活動内容	○児童発達支援センターとしての障害児支援の推進	○児童発達支援事業の実施	○児童発達支援事業の実施 ・障害児通園事業・送迎バス実施（業務委託） ・初回相談土曜日実施 ・個別療育枠増設	○児童発達支援事業の実施 ・障害児通園事業及び送迎バス実施（業務委託） ・初回相談土曜日試行実施 ・個別療育枠増設
		○調理室改修工事（児童発達支援センター化に向けた施設整備）	○調理室改修工事（児童発達支援センター化に向けた施設整備）	○調理室改修工事（児童発達支援センター化に向けた施設整備）
事業費（千円）		318,066	318,066	298,084
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

計画コード	37	重点P	-	-
事務事業	障害者グループホームの整備			
所管部署	福祉健康部・障害福祉課・サービス支援係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
活動内容	○障害者の地域で自立した生活を支援するため、グループホーム整備・開設支援・運営支援を実施 ○重度身体障害者グループホームの設置検討	○民間グループホームの開設支援	○民間グループホームの開設支援（1箇所）	○民間グループホームの開設支援（1箇所）
		○新規入居支援	○新規入居支援	○新規入居支援
		○運営支援	○運営支援	○運営支援
		○重度重複障害者グループホームの運営支援（2箇所）	○重度重複障害者グループホームの運営支援（2箇所）	○重度重複障害者グループホームの運営支援（2箇所）
事業費（千円）		222,396	222,396	206,808
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

10 セーフティネットによる生活支援			
主管課名	福祉健康部 生活福祉課		
主管課長名	宇津木 ゆみ子	電話番号	042-481-7092
関係課名 (組織順)	産業振興課, 福祉総務課, 高齢福祉担当, 障害福祉課, 健康推進課, ごみ対策課		
目的	対象	生活困窮者, 生活保護受給者	
	意図	自立して生活をおくることができる, 健康で文化的な生活をおくることができる	
施策の方向	生活保護に至る前の生活困窮者の早期把握に努め, 個々の状態に応じた適切な支援を行うとともに, 生活保護制度の適正な運用により健康で文化的な最低限度の生活を保障し, 自立に向けて継続的な支援を実施していきます。		

<施策と関連するSDGsの目標（ゴール）>



1 令和元年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション (①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信)	
<p>(10-1 生活困窮者の自立支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ワンストップ型相談窓口「調布ライフサポート」(社会福祉協議会へ委託)では生活困窮者に関する包括的な相談, 支援プランの作成, 他の制度・支援の情報提供等を行った。 令和元年度からは新たに就労準備支援事業・家計改善支援事業を一体的に実施することにより支援体制を強化し利用の促進に努めた。 離職により経済的に困窮し家賃の支払いが困難な方に「住居確保給付金」制度の活用ができるよう支援を行い自立の促進を図った。 調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」において生活困窮世帯や生活保護世帯の中学生を対象に支援を行い, 進学や学習意欲等の向上につなげた。 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども生活部との連携はもちろんのこと, 各種相談事業を所管する庁内関係部署との連携や地域福祉コーディネーター, ハローワーク, 居住支援協議会等の関係機関とも緊密に連携した。 ■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」 生活困窮者就労準備支援事業では個々の困窮状況に応じて, 自立した生活を送れるよう支援するため, 地域の多様な主体による支え合い体制の構築に向け, 地域福祉コーディネーターをはじめ地域包括支援センター, 地域支え合い推進員, 民生委員, こころの健康支援センター等他機関と連携した。 	
<p>(10-2 生活保護制度に基づく適正な保護と自立支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> 国が掲げる「漏給防止」「濫給防止」「自立支援」の3点を柱に適正な保護の実施に努めた。 「漏給防止」の取組としては, 相談の際には相談者に対して生活保護制度等についての十分な説明や助言を行った。また, 必要な方が生活保護に繋がるよう, 地域の方々からの情報提供に対しては迅速な現場確認に努めた。 「濫給防止」の取組としては, 被保護世帯の生活状況を把握し自立の助長に向けた適切な指導援助を行うため, 査察指導員が各ケースワーカーに年間訪問計画の策定と訪問活動の実施を働きかけるとともに, その進行管理に努めた。 「自立支援」では, 就労支援員が庁内ハローワークや民間職業紹介事業者の就職サポート事業を活用し, 被保護者の経済的な自立の促進を図った。また, 日常生活や地域社会において自立した生活を送れるよう, 金銭管理支援事業・自立促進事業を行い, 次世代育成支援として高校3年生までの通塾代の助成や大学受験費用の助成等を行った。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 平成26年8月に多摩地域では2番目となる先駆的な取組として, 市役所内にハローワーク常設窓口を設置し, 就労支援対象者への支援に取り組んでいる。 	
<p><令和元年度における施策の成果についての総括></p> <ul style="list-style-type: none"> 生活困窮者自立支援法に基づき, 生活保護に至る前の段階の自立支援を図るため, 支援窓口であるワンストップ型の「調布ライフサポート」を設置し, 住居確保給付金の支給や自立相談支援事業に加え, 家計改善事業・就労準備支援事業を一体的に実施することで生活困窮者の自立の促進を図った。調布市子ども・若者総合支援事業「ここあ」を活用し子どもの学習支援・生活支援等を実施した。 生活に困窮している最後のセーフティネットとして, 生活保護制度の適正な運用を行った。生活保護受給者の自立促進を図るため, ケースワーカーが各関係機関と連携しながらきめ細かな訪問活動を行うとともに, 金銭管理支援や次世代育成支援にも取り組み, 自立に向けた体制づくりに寄与した。 	

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標，◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	就労支援対象者のうち，就労・増収した者の割合【☆】	87.0 (H30)	%	75.6	90.0
2	就労支援事業等の参加者のうち，就労・増収した者の割合【☆】	46.1 (H29)	%	50.5 (H30)	50.0
【備考】就職者数には，昨年度から継続支援している対象者も含まれる。					

2 基本計画事業取組実績

計画コード	38	重点P	-	-
事務事業	生活困窮者自立支援事業			
所管部署	福祉健康部・生活福祉課・生活福祉係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○生活困窮者自立支援事業の実施	○生活困窮者自立支援事業の実施 ・自立相談支援機関の運営 ・住居確保給付金の支給 ・就労準備支援事業の実施 ・家計改善支援事業の開始 ・子どもの学習支援事業の実施	○生活困窮者自立支援事業の実施 ・自立相談支援機関の運営 ・住居確保給付金の支給 ・就労準備支援事業の実施 ・家計改善支援事業の実施 ・子どもの学習支援事業の実施	○生活困窮者自立支援事業の実施 ・自立相談支援機関の運営 ・住居確保給付金の支給 ・就労準備支援事業の実施 ・家計改善支援事業の実施 ・子どもの学習支援事業の実施
	事業費 (千円)	57,286	57,286	55,714
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

計画コード	39	重点P	-	-
事務事業	自立支援事業の充実			
所管部署	福祉健康部・生活福祉課・生活福祉係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○自立支援専門員の配置 ○支援プログラムの策定・支援 ○就労による自立の促進 ○自立促進事業	○経済的自立に向けた支援 ・就労支援員による支援 ・就労や就労意欲形成に関する支援 ○日常生活自立に向けた支援 ・金銭管理・健康管理に関する支援 ○社会生活自立に向けた支援 ・次世代育成に関する支援 ○自立促進事業の実施	○経済的自立に向けた支援 ・就労支援員による支援 ・就労や就労意欲形成に関する支援 ○日常生活自立に向けた支援 ・金銭管理・健康管理に関する支援 ○社会生活自立に向けた支援 ・次世代育成に関する支援 ○自立促進事業の実施	○経済的自立に向けた支援 ・就労支援員による支援 ・就労や就労意欲形成に関する支援 ○日常生活自立に向けた支援 ・金銭管理・健康管理に関する支援 ○社会生活自立に向けた支援 ・次世代育成に関する支援 ○自立促進事業の実施
	事業費 (千円)	65,841	65,841	52,869
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

11 雇用・就労の支援			
主管課名	生活文化スポーツ部 産業振興課		
主管課長名	山本 篤志	電話番号	042-443-1219
関係課名 （組織順）	男女共同参画推進課, 福祉総務課, 生活福祉課, 高齢福祉担当, 障害福祉課		
目的	対象	就労者, 就労希望者, 事業所	
	意図	就労していきいきと暮らすことができる	
施策の方向	国, 東京都等の関係機関や近隣自治体及び民間事業者など多様な主体と連携し, 個々に応じた雇用・就労を支援します。また, 市内事業者の福利厚生の上を促進します。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和元年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
（11-1 雇用・就労に向けた支援）	<p>・調布国領しごと情報広場の運営参画, 就労支援セミナーや就職面接会, 事業者向けセミナーの開催, ちょうふ若者サポートステーションの運営支援など国や東京都の関係機関と連携して, 雇用・就労に向けた支援を積極的に展開した。</p> <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ちょうふ若者サポートステーションの職場体験プログラム実施への協力などにより, 若者の職業的自立を支援した。 ・障害者の就労支援については, 障害者の雇用についての理解を高め, 雇用の促進と安定を図ることを目的とした「障害者就労体験事業奨励金」について, 障害者就労支援法人との連携に努めた。 <ul style="list-style-type: none"> ■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」 ・ハローワーク府中と, 「地域雇用問題連絡会議」及び『調布国領しごと情報広場』業務運営に関する協議会, 東京都労働相談情報センター八王子事務所と「労働情勢懇談会」をそれぞれ開催し, 情報共有を図るとともに, 雇用・就労の支援に向けた意見交換を行った。 ・地域活性化包括連携協定に基づき, (株)セブン-イレブン・ジャパンとの共催で「シニア向けお仕事説明会」を開催し, 高齢者の就労を支援した。 ・公益財団法人東京しごと財団との共催で就職面接会を開催したほか, 新たにシニア向けのセミナーを実施した。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調布国領しごと情報広場マザーズコーナーにおける保育付き就労セミナーの共催や貸出用スーツの提供により女性の就労支援を推進した。
（11-2 就労者に対する支援）	<p>・調布市勤労者互助会の運営の安定と事業の充実を図るために補助金を交付するほか, 同会を市報やホームページでPRするとともに, 産業振興課窓口にパンフレットを配架するなど, 加入促進支援を図った。</p> <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京都労働相談情報センター八王子事務所と共催して, 職場復帰セミナーを開催するとともに, 三鷹労働基準監督署, ハローワーク府中とも連携し, 調布駅前街頭労働相談を実施し, 労働問題全般への意識啓発を図った。 <ul style="list-style-type: none"> ■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」 ・勤労者互助会への新規加入者を増加させるために, 中小企業事業資金融資あっせんの通知文書に「勤労者互助会の案内」を同封するほか, よろず経営相談（アウトリーチ型相談）の際や, 福祉作業所等連絡会の場で周知を図った。 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市報やホームページに勤労者互助会の案内を掲載するとともに, 産業振興課窓口にパンフレットを配架するなどの加入促進支援に加え, 中小企業事業資金融資あっせん通知文書への案内書同封, よろず経営相談や福祉作業所等連絡会の場で周知を図った。
< 令和元年度における施策の成果についての総括 >	
<ul style="list-style-type: none"> ・ハローワーク府中との共催による就職面接会やセミナーなどの実施により, 「国領しごと情報ひろば」の就職者数（1,232人）のうち, 市内在住者数は814人となりその割合は66%となった。 ・調布市勤労者互助会への補助金交付やパンフレット配架などにより, 勤労者互助会の会員数は3,511人となった。 	

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標, ◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	「調布国領しごと情報広場」全体の就職者における市内在住者の割合【☆】	61.0 (H29)	%	66.0	65.0
2	勤労者互助会の会員数【☆】	3,465 (H29)	人	3,511	3,500
3	「調布国領しごと情報広場」における市内在住者の就職者数【◎】 (目標値は令和元年度)	1,037 (H26)	人	814	<u>1,150</u>
【備考】					

2 基本計画事業取組実績

計画コード	40	重点P	-	-
事務事業	調布国領しごと情報広場の運営参画			
所管部署	生活文化スポーツ部・産業振興課・産業労働支援係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
活動内容	○調布国領しごと情報広場運営への参画による就労相談の充実	○ハローワーク府中と連携した就労支援の実施	○ハローワーク府中と連携した就労支援の実施	○ハローワーク府中と連携した就労支援の実施
		○就労セミナーや合同就職面接会の開催	○就労セミナーや合同就職面接会の開催	○就労セミナーや合同就職面接会の開催
事業費 (千円)		2,851	2,851	2,441
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

12 生涯を通じた健康づくり			
主管課名	福祉健康部 健康推進課		
主管課長名	川手 智子	電話番号	042-441-6100
関係課名 （組織順）	スポーツ振興課，子ども政策課，保育課，子ども家庭課，生活福祉課，高齢福祉担当，介護保険担当，障害福祉課，子ども発達センター，保険年金課，学務課，指導室，社会教育課		
目的	対象	市民	
	意図	生涯にわたり健康な生活をおくることができる，身近な地域で安心して医療を受けられる	
施策の方向	市民が主体的に取り組む地域健康づくりや疾病予防を推進するとともに，疾病の早期発見・早期治療体制を充実します。また，医療保険制度改革に適切に対応して保健行政の推進を図ります。		

<施策と関連するSDGsの目標（ゴール）>



1 令和元年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）	
<p>（12-1 からだとこころの健康づくりの推進）</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民が自主的に行っている「調布市民健康づくり始める会」や，市民が利用している「健康活動ひろば」での活動を支援 令和元年7月施行の調布市受動喫煙防止条例についての周知・啓発や受動喫煙ゼロの店登録事業を実施 自殺対策の一層の推進のため，自殺の危機的要因の解消や複雑化の防止に向け，地域のネットワークを構築 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 庁内連絡会を通じて健康づくり，食育，自殺対策を推進 「高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施」に向け庁内検討 ■連携テーマ3「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 庁内連絡会を通じて受動喫煙防止条例の周知・啓発の取組を推進 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> アフラック生命保険（株）と連携し，「がんを知る展」や小児がん患者支援活動を通じ，がん検診の大切さを周知 市内複数の企業と連携し，小学生参加の食育セミナーにおいて食に関する「こころ，からだ，わざ」の各分野を体験する機会を提供 医師会，歯科医師会，薬剤師会（3師会）と連携し，受動喫煙防止対策を推進 	
<p>（12-2 早期発見・早期治療・重症化予防の充実）</p> <ul style="list-style-type: none"> 国の指針に基づき，胃がん内視鏡検診を導入しがんの早期発見を図った。 ゆりかご調布事業について，母子健康手帳の受付を集約（子育て包括支援センター）することで，妊娠早期から相談支援を行うとともに，より多くの妊婦の方へ情報提供及び相談を実施 風しんの抗体価が低い年代の男性に対してクーポン券を送付し，抗体検査や予防接種を受ける機会を提供 	
<p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギーなどのアレルギー対応について，関係部署と広く連携し市の対策を検討 新型コロナウイルス感染症について，対策本部を設置し全庁的な対策を実施 <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 3師会と連携し，災害発生時に設置される緊急医療救護所にて医療救護所訓練を実施 都立病院と連携し，アレルギー事業での医師相談を実施 	
<p>（12-3 国民健康保険事業等の実施）</p> <ul style="list-style-type: none"> 第2期調布市国民健康保険データヘルス計画（計画期間：平成30年度～令和5年度）を推進し，各保健事業の実施により，加入者の健康増進を図った。 平成30年度から実施された国民健康保険新制度を適切に運営するとともに，引き続き，医療費の適正化や国民健康保険税の収納率の向上に取り組んだ。 	
<p><令和元年度における施策の成果についての総括></p> <ul style="list-style-type: none"> 胃がん内視鏡検査を導入し1,191人が受診。検診の選択肢が拡大し，利便性の向上につながった。 調布市受動喫煙防止条例の施行により，受動喫煙防止の取組が進んだ。 風しん第5期予防接種対象者にクーポン券を送付。455人が接種し，風しんの発症防止につながった。 特定健康診査については，引き続き，受診勧奨に努め，受診率が53.8%（前年度比0.3ポイント向上）となった。 	

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標，◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	健康だと感じている市民の割合【☆】	74.1 (H30)	%	74.2	80.0
2	定期的にがん検診を受けている人の割合【☆】	58.0 (H30)	%	49.2	60.0
3	特定健康診査の受診率【☆】	54.0 (H29)	%	53.8	59.5
【備考】					

2 基本計画事業取組実績

計画コード	41	重点P	-	-
事務事業	がん検診の充実			
所管部署	福祉健康部・健康推進課・健康推進係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○がん検診の推進 ○受診率の向上と要精密検査者のフォローの充実	○集団検診の実施（胃がん，肺がん） ○個別検診の実施（胃がん，大腸がん，乳がん，子宮頸がん，前立腺がん） ・胃がん内視鏡検査実施 ○20歳の女性に子宮頸がん検診の受診啓発 ○要精密検査者へのフォロー実施 ○がん検診推進事業（クーポン配布，ポスター掲示，相談事業等）	○集団検診の実施（胃がん，肺がん） ○個別検診の実施（胃がん，大腸がん，乳がん，子宮頸がん，前立腺がん） ・胃がん内視鏡検査実施 ○20歳の女性に子宮頸がん検診の受診啓発 ○要精密検査者へのフォロー実施 ○がん検診推進事業（クーポン配布，ポスター掲示，相談事業等）	○集団検診の実施（胃がん，肺がん） ○個別検診の実施（胃がん，大腸がん，乳がん，子宮頸がん，前立腺がん） ・胃がん内視鏡検査実施 ○20歳の女性に子宮頸がん検診の受診啓発 ○要精密検査者へのフォロー実施 ○がん検診推進事業（クーポン配布，ポスター掲示，相談事業等）
	事業費（千円）	472,604	472,604	413,008
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0
計画コード	42	重点P	-	-
事務事業	国保ヘルスアップ事業の推進			
所管部署	福祉健康部・保険年金課・給付係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○保健事業の実施 ○実施事業の効果測定及び次年度以降の実施事業の検討 ○医療費分析の実施	○医療費分析の実施 ○データヘルス計画に基づく保健事業の実施 ○各保健事業の評価	○医療費分析の実施 ○データヘルス計画に基づく保健事業の実施 ○各保健事業の評価	○医療費分析の実施 ○データヘルス計画に基づく保健事業の実施 ・糖尿病重症化予防事業の実施 ・受療勧奨事業の実施 ・薬剤併用禁忌予防啓発の実施 ○実施した保健事業の評価
	事業費（千円）	20,453	20,453	13,690
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

13 生涯学習のまちづくり

主管課名	生活文化スポーツ部 文化生涯学習課		
主管課長名	佐々木 淳	電話番号	042-481-7541
関係課名 （組織順）	協働推進課, 男女共同参画推進課, スポーツ振興課, 環境政策課, 社会教育課, 公民館, 図書館, 郷土博物館		
目的	対象	市民	
	意図	生涯にわたり学習し, 学んだことをまちづくりに生かす	
施策の方向	市民が生涯を通じて学習に取り組み, いきいきと豊かな人生をおくることができるよう支援するとともに, 学んだ成果が市民同士の交流やまちづくりに生かされるよう, 生涯学習を振興してまいります。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和元年度の振り返り — 取組実績（DO）

施策の成果向上に向けた主な取組実績

施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）

（13-1 学びのきっかけづくり）

・多様な学びのきっかけづくりとして生涯学習出前講座を106講座設け, 令和元年度は67回実施したほか, 市民が生涯学習の楽しさを知り, 地域との関わりを持つ機会を提供することを目的として生涯学習サークル体験事業を実施した。

・学びに関する情報提供及び相談について, 生涯学習情報コーナーと市民活動支援センターが拠点となり, 幅広い情報収集と提供に努めた。また, 社会教育情報誌「コラボ」を年3回発行し, 市内の小・中学校・社会教育施設に配布するなど社会教育に関する様々な事業や情報の周知を図った。

・図書館では, 講演会や読書会等の啓発事業の継続実施, 調布市立図書館公式キャラクター「じろ」を活用した図書館活動のPRなどを実施した。子どもたちへの取組としては, 小学生読書会やおはなし会, 小学校と連携した図書館ガイダンス等を実施した。

①横断的連携による施策の推進

・学びに関する情報提供において, 生涯学習情報コーナー及び市民活動支援センターの連携の下, 「ちょうふ地域コミュニティサイト（ちょみっと）」と生涯学習情報専用ページ「生涯学習情報コーナー」を連動させながら, 積極的な情報発信を図った。

・学びに関する相談について, 市と地域活性化包括連携協定を締結している商業施設や各公民館において, 出張相談を実施した。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

・シニア世代に向けては, 地域活動を始めるきっかけづくりとして, 市民活動団体との協働により「地域デビュー歓迎会」をはじめとする地域デビュー事業を実施したほか, 令和元年度から全8回の連続講座「セカンドライフ応援講座」を新規に実施した。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

・生涯学習を始めるきっかけづくりとラグビーワールドカップ2019の機運醸成を目的として, 調布市ラグビーフットボール協会との連携により「全力で楽しむ！ラグビー観戦講座」を開催した。

・東京2020大会に向けて, 図書館内の常設コーナーにおいて, 大会に関する情報や資料の提供を行い, 機運醸成を図った。

②調布のまちの魅力発信

・専門職である調布市生涯学習まちづくり推進員が, 文化会館たづくり11階の調布市生涯学習情報コーナーにおいて, 市内で活動する各種サークル・団体情報, 講師情報等の情報提供や相談を行っている。

（13-2 学べる機会の充実）

・図書館では, 市民の多様な学習ニーズに応えるため, 図書や雑誌など新たに約5万2,000冊を受け入れるとともに, 年間延べ約243万点の貸出しを行ったほか, 調布市に関する新聞記事・ポスター等の地域資料のデジタル化を推進した。

・公民館では, 講演会・市民講座・高齢者対象事業・市民文化教室・国際理解・家庭教育・青少年対象事業・平和祈念などの多様な事業を展開した。

・（公財）調布市文化・コミュニティ振興財団では, 「ちょうふ市民カレッジ」として, 美術, 陶芸, 音楽, 映像, 古典・伝統など幅広い分野における講座を実施する中で, 展示事業, 公演事業などとの事業連携を図りながら, 学習活動の機会の充実に努めた。

・市と相互友好協力協定を締結している7大学等について, 各大学等の魅力を市民へ伝え, 市民の生涯学習にもつながるよう, 市との連携事業や各大学等における市民向けの取組等に関して定期的に情報交換を実施した。

①横断的連携による施策の推進

・より多くの市民に広く多様な学習機会を提供するため、市民をはじめ、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団や相互友好協力協定締結大学、民間事業者等多様な主体との連携を図りながら、内容の充実に努めた。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

・図書館がより効果的な学習活動の拠点として機能するよう、多様な資料や情報の収集、整理、提供、保存を行うとともに、だれもが読書や調査をできるよう、音訳、点訳、対面朗読、宅配などサービスの充実に努めている。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団が実施する「ちょうふ市民カレッジ」では、東京2020大会に向け、伝統文化を次世代に継承する講座を実施した。

②調布のまちの魅力発信

・協定大学等との連携において、東京慈恵会医科大学との共催により、中学生のための大学一日体験入学を実施したほか、電気通信大学との共催により、「サイエンスカフェChofu」を5回開催した。また、学生による展示、ワークショップ及び発表を行う「調布市協定大学ゼミ展」を新規に開催し、協定大学全7大学等が参加した。

・図書館では、水木しげる氏の著作を収集・提供し、その人生や平和の思いの普及・継承に努めているほか、映画資料の収集・提供を通じ、映画のまち調布の推進を図っている。

(13-3 団体の学びの活動支援)

・「生涯学習サークル体験事業」や「地域デビュー歓迎会」の開催などにより、生涯学習サークルの会員増に努めるとともに、団体の活性化に向けた支援を行った。

・市民や生涯学習・市民活動団体が自由に生涯学習活動を行う場である「みんなの広場」について、令和元年度は、3,514団体、1万5,262人が利用し、個人学習利用728人と合わせると1万5,990人が利用した。

・社会教育分野では、各小・中学校のPTA(9校)が企画運営する「家庭教育セミナー」を支援し、実施校の保護者や、地域住民、他地区の保護者(計464人)に対して学びの場を提供した。

・図書館では、生涯学習団体と協力し、分館の集会室や地域の集会施設で市民の読書・文化活動を推進し、2月には、「樟(くすのき)まつり」を開催、幅広いテーマを取り上げた文化講演会や文芸講演会、名画鑑賞会など10の催しを実施した。

①横断的連携による施策の推進

・文化会館たづくりや図書館、公民館など市内の生涯学習・社会教育施設が連携しながら、市民や生涯学習・市民活動団体が活動を行うことができる場の確保を図り、「学び」の活動支援を行っている。

②調布のまちの魅力発信

・文化会館たづくり11階「みんなの広場」は、生涯学習・市民活動団体等による作品展示の場としても活用されており、令和元年度は、29団体が展示を行った。

(13-4 まちづくりへの学びの成果の活用)

・市のサークル体験事業に参加した市民が、そこで学んだ成果を発表することを通して、地域活動に参加するきっかけとするとともに、サークル間の交流を促進することを目的に、「生涯学習体験発表コンサート・展示会」を実施した。

・「地域デビュー歓迎会」では、既に地域での活動を始めている市民をゲストに招き、同年代の身近な事例を通して、地域活動において自身の技能や資格、経験等を生かすことの喜びや意義を紹介した。

・(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団では、芸術・文化の裾野の拡大と普及を目指すために市民が講師を務める「市民講師講座」を5講座開講した。

①横断的連携による施策の推進

・令和元年度は、「地域デビュー事業」及び「生涯学習サークル体験事業」の連携を強化し、地域デビュー推進委員会が「生涯学習体験発表コンサート・展示会」を企画したほか、関連企画として新たに「サークルデビューしませんか?」を立ち上げ、効果的な事業展開を図った。

■連携テーマ1 「地域共生社会の実現に向けた取組」

・高齢者が健康を維持しながらいきいきと豊かな人生を送ることができるよう、地域デビュー事業等の実施により、アクティブシニアが自身の技能や資格、経験等を生かして、地域活動に参加するきっかけづくりや機会の充実に努めた。

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

・東京2020大会の機運醸成に向けた取組やラグビーワールドカップ2019大会開催時におけるボランティア活動などを通じて、様々な分野における学びのきっかけづくりを推進した。

②調布のまちの魅力発信

・市民で組織された地域デビュー推進委員会との協働により地域デビュー事業を展開しており、各事業の企画・運営等も推進委員会が担っているが、推進委員会自体が地域デビューの受け皿としても機能している。

<令和元年度における施策の成果についての総括>

・生涯学習出前講座をはじめ、公民館や図書館での各種講座、(公財)調布市文化・コミュニティ振興財団における「ちょうふ市民カレッジ」、相互友好協力協定締結大学との連携事業、市民団体や民間事業者等との連携事業などにより、広く多様な学習機会の提供を図った。

・シニア世代が地域活動を始めるきっかけづくりとして、「地域デビュー歓迎会」、「調布再発見バス&徒歩ツアー」、「男の料理教室」、「地域ボランティアデビューしませんか?」、「サークルデビューしませんか?」など、市民との協働により地域デビュー事業を実施したほか、新規に、「セカンドライフ応援講座」を開催するなど、アクティブシニアの地域活動への参加を促進した。

・協定大学との連携では、東京慈恵会医科大学での中学生のための大学一日体験入学、電気通信大学と平成29年度から実施している「サイエンスカフェChofu」の開催に加え、新たに協定大学7大学等との共催による「調布市協定大学ゼミ展」を開催し、協定大学学生による展示、ワークショップ及び発表を行った。

・図書館では、新たな図書、雑誌などの受入れは約5万2,000冊、聴覚資料や団体貸出を含めた貸出は年間延べ約243万点であったほか、図書館所蔵の地域資料や映画資料をデジタル化し、資料の保存・活用を推進した。

まちづくり指標 【☆：基本計画におけるまちづくり指標、◎：総合戦略における指標】		基準値 (基準年度)	単位	実績値 令和元年度	目標値 令和4年度
1	1年間に生涯学習をした人の割合【☆】	38.6 (H30)	%	40.0	40.0
2	社会教育施設の満足度（上段：図書館、下段：公民館）【☆】	68.3 41.2 (H30)	% %	77.9 74.8	75.0 50.0
3	生涯学習情報コーナーのアクセス数【☆】	8万3,014 (H29)	件	6万295	9万
4	学習の成果をまちづくりに生かしている市民の割合【☆】	19.3 (H30)	%	20.6	25.0
【備考】					

2 基本計画事業取組実績

計画コード	43	重点P	-	-
事務事業	学習活動及びまちづくりへの参加の促進			
所管部署	生活文化スポーツ部・文化生涯学習課・文化生涯学習係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○主にシニア世代の市民を対象に生涯学習活動や地域活動に参加するきっかけをつくる ○サークルの団体活動を活性化	○各種地域デビュー事業 ○生涯学習サークル体験事業	○各種地域デビュー事業 ○生涯学習サークル体験事業	○各種地域デビュー事業 ○生涯学習サークル体験事業
	事業費 (千円)	500	500	500
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

計画コード	44	重点P	-	-
事務事業	市民の読書・調査活動への支援			
所管部署	教育部・図書館・資料係・図書館サービス係・調査支援係・利用支援係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○資料・情報の選定、収集、整理、提供、保存 ○資料目録データの整備 ○保存スペースの確保 ○電算システムの更新及び効率化の検討 ○職員・嘱託員の能力向上 ○マルチメディアDAISY図書作成 ○地域資料等貴重な資料のデジタル化	○資料・情報の選定、収集、整理、提供、保存 ○資料目録データの整備 ○次期電算システムの検証 ○電子書籍の導入検討 ○職員・嘱託員の能力向上のための研修 ○ブックスタート事業の実施 ○マルチメディアDAISY図書作成 ○地域資料等のデジタル化	○資料・情報の選定、収集、整理、提供、保存 ○資料目録データの整備 ○次期電算システムの検証 ○電子書籍の導入検討 ○職員・嘱託員の能力向上のための研修 ○ブックスタート事業の実施 ○マルチメディアDAISY図書作成 ○地域資料等のデジタル化	○資料・情報の選定、収集、整理、提供、保存 ○資料目録データの整備 ○次期電算システムの検証 ○電子書籍の導入検討 ○職員・嘱託員の能力向上のための研修 ○ブックスタート事業の実施 ○マルチメディアDAISY図書作成 ○地域資料等のデジタル化
	事業費 (千円)	355,213	355,213	347,475
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

14 市民スポーツの振興			
主管課名	生活文化スポーツ部 スポーツ振興課		
主管課長名	村上 法彦	電話番号	042-481-7508
関係課名 (組織順)	福祉総務課, 高齢福祉担当, 障害福祉課, 健康推進課, 緑と公園課, 指導室, 社会教育課		
目的	対象	市民	
	意図	だれもがスポーツに親しみ, 楽しむことができる スポーツを通して交流がはぐくまれる だれもがスポーツを通して心身ともに健康になる	
施策の方向	年齢や障害等を問わず, 広く市民がスポーツに親しみ, 楽しめる環境を整備します。また, ラグビーワールドカップ2019™日本大会と東京2020大会を契機としたスポーツの振興を通して市民の交流が盛んになるまちを目指します。		

< 施策と関連するSDGsの目標（ゴール） >



1 令和元年度の振り返り — 取組実績 (DO)

施策の成果向上に向けた主な取組実績	
<p>施策における2つのアクション（①横断的連携による施策の推進 ②調布のまちの魅力発信）</p> <p>(14-1 スポーツ環境の整備)</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共建築物維持保全計画を踏まえ市民が安全で快適に利用できるよう, 施設の整備・維持管理を実施した。 台風19号の影響により被害を受けた多摩川児童公園内運動施設のグラウンド修繕等を実施した。 調布市体育協会による, 総合体育館の不具合への迅速な対応や, プログラムの実施による施設の効率的かつ効果的な活用を図った。 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 ■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」 施設のバリアフリー化（多摩川テニスコートクラブハウス・市民プール・西調布体育館・調布基地跡地運動広場） <p>②調布のまちの魅力発信</p> <ul style="list-style-type: none"> 「国際・全国スポーツ大会出場報奨金」を交付し, 次世代アスリートを支援した。 	
<p>(14-2 ライフステージに応じたスポーツ活動の推進)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調布市体育協会の「リフレッシュ体操スクール事業」では, 市民の運動習慣のきっかけづくりに寄与した。 調布市体育協会が行うセブンプログラムでは, 幅広い市民へのスポーツの振興を図った。 調布市の三大スポーツイベントである第59回調布市民体育祭, 第37回市民スポーツまつり, 第64回調布市民駅伝競走大会では, 多くの市民が参加し, 市民へのスポーツの振興に寄与した。 学校開放事業では, 体育館・校庭等の開放を行うことで, 市民のスポーツ等の活動を行う場の提供を行った。 スポーツ推進委員会では, ニュースポーツや障害者スポーツの普及による市民スポーツの振興を図った。 ラグビーワールドカップ2019や東京2020大会を契機としたスポーツ振興を図るため, 調布市体育協会や各競技団体等関係団体と連携し, 様々な事業を実施することで, 市民がスポーツを「する」・「みる」機会を創出した。 <p>①横断的連携による施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> パラリンピックを契機とした障害者スポーツの振興による障害理解の促進と共生社会の実現に向け, 障害福祉課や東京都, 東京都障害者スポーツ協会と連携し, 福祉分野とスポーツ分野の関係者による「調布市障害者スポーツの振興における協議体」を設置し実施した。 ■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」 各競技団体や関係団体と連携した体験会や講演会等の実施 ■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」 「調布市障害者スポーツの振興における協議体」を3回開催し, 障害者を取り巻くスポーツ環境について, 現状と課題の共有を図った。 調和SHC倶楽部とスポーツ推進委員会と連携し, 「東京都市町村ポッチャ大会」の予選会も兼ねたポッチャ交流会を実施し, パラリンピックを契機とした多摩地域のポッチャの普及に寄与した。 	

(14-3 FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進)

- ・FC東京との連携において、市内のプロジェクトチームの活用や市内関係部署との情報交換会を開催し、FC東京との連携事業をスポーツ分野のみならず、青少年の健全育成、福祉、地域振興等の様々な分野で実施した。
- ・読売巨人軍やリクシルティアーズ、拓殖大学陸上競技部等各種スポーツ団体とも連携した事業を実施した。

①横断的連携による施策の推進

■連携テーマ3 「2019年・2020年を契機としたレガシーの創出」

■連携テーマ4 「パラリンピックレガシーの創出」

- ・障害者スポーツへの理解と普及を目的に「FC東京×ブラインドサッカー◎講演会」を実施

②調布のまちの魅力発信

- ・「FC東京のまち調布」としてJリーグのホームタウンという強みを活かした事業展開が図られている。

<令和元年度における施策の成果についての総括>

- ・東京2020大会に向け、東京都の補助金を活用し、基地跡地運動広場のトイレ改修工事等、施設のバリアフリー化を進め、利用環境の向上を図った。
- ・ラグビーワールドカップ2019に向けた機運醸成や、大会で盛り上がった機運を東京2020大会につなげるべく事業展開を図った一方で、新型コロナウイルス感染症の影響により、スクラムフェスティバル Vol.7等の事業が中止となった。
- ・障害者スポーツの振興を大会後も継続して図るため、福祉分野や東京都、関係団体と連携した協議体を設置し、具体的な話し合いの機会を創出することができた。

まちづくり指標		基準値	単位	実績値	目標値
【☆：基本計画におけるまちづくり指標、◎：総合戦略における指標】		(基準年度)		令和元年度	令和4年度
1	体育施設の年間利用者数【☆】	105万 4,986 (H29)	人	91万 7,430	107万
2	運動を週に1回以上行っている市民の割合【☆、◎】	63.9 (H30)	%	62.8	70.0
3	FC東京と連携したスポーツ事業の参加者数【☆】	653 (H29)	人	523	900
4	調布市における2020年オリンピック・パラリンピックに向けた取組に参加したい、または関心がある市民の割合【◎】(目標値は令和元年度)	39.9 (H28)	%	60.5	60.0

【備考】体育施設の年間利用者数及びFC東京と連携したスポーツ事業の参加者数の減少については、新型コロナウイルス感染症の影響による施設の休場・休館及び事業の中止の影響が主な原因と考えられる。

2 基本計画事業取組実績

計画コード	45	重点P	-	-
事務事業	スポーツ施設の整備			
所管部署	生活文化スポーツ部・スポーツ振興課・スポーツ振興係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
活動内容	既存施設の維持保全・改修 ・調布市民プール ・総合体育館 ・緑ヶ丘テニスコート ・西調布体育館等	○既存施設の維持保全・改修 ・調布市民プール ・総合体育館 ・緑ヶ丘テニスコート ・西調布体育館等 ・多摩川テニスコート	○既存施設の維持保全・改修 ・調布市民プール ・総合体育館 ・緑ヶ丘テニスコート ・西調布体育館 ・多摩川テニスコート	○既存施設の維持保全・改修 ・市民プール、多摩川テニスコートクラブハウス、西調布体育館、調布基地跡地運動広場トイレ等改修・改築工事 ・総合体育館体育室床及び照明設備改修工事設計 ・総合体育館上水用・雑用水用ポンプ更新工事 ・緑ヶ丘テニスコートクラブハウス電気設備改修工事等
	事業費 (千円)	57,788	57,788	143,955
債務負担行為等による用地取得費		0	0	0

計画コード	46	重点P	-	-
事務事業	調布市体育協会事業の支援			
所管部署	生活文化スポーツ部・スポーツ振興課・スポーツ振興係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○調布市体育協会事業への支援及び連携 ・市民体育祭 ・市民スポーツまつり ・市民駅伝競走大会 ・リフレッシュ健康スクール ・フットサル大会 等 ○東京2020大会等の機会を捉えた「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり」の推進	○調布市体育協会事業への支援及び連携 ・市民体育祭 ・市民スポーツまつり ・市民駅伝競走大会 ・リフレッシュ健康スクール ・フットサル大会 等 ○東京2020大会等の機会を捉えた「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり」の推進	○調布市体育協会事業への支援及び連携 ・市民体育祭 ・市民スポーツまつり ・市民駅伝競走大会 ・リフレッシュ健康スクール ・フットサル大会 等 ○「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」の理念に基づく事業の促進	○調布市体育協会事業への支援及び連携 ・市民体育祭 ・市民スポーツまつり ・市民駅伝競走大会 ・リフレッシュ健康スクール ・フットサル大会 等 ○「豊かな芸術文化・スポーツ活動を育むまちづくり宣言」の理念に基づく事業の促進
	事業費 (千円)	40,085	40,085	36,796
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

計画コード	47	重点P	④	にぎわいと交流のある活気に満ちたまち
事務事業	東京2020大会等を契機としたスポーツ振興による多面的効果の創出			
所管部署	生活文化スポーツ部・スポーツ振興課、オリンピック・パラリンピック担当			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	ラグビーワールドカップ2019日本大会・東京2020大会を契機として、国や都、関係団体等の多様な主体と連携し、市のまちづくりへの多面的な効果を創出していく中で、とりわけパラリンピック開催を契機とした障害者スポーツの振興に取組む。	○アクション&レガシープランを踏まえた取組の検討 ・実践及びレガシーの検討 ○オリンピック・パラリンピックに関するスポーツイベント等の検討・実施 ・小学生タグラグビー大会 ・ラグビー体験事業 ・アスリート交流事業 ・障害者スポーツ体験事業 ・26市連携によるポッチャ大会 ・府中調布三鷹ラグビーフェスティバル ・車いすバスケットボール国際大会対応 ○スポーツボランティアの育成 ○関連団体との連携による機運醸成事業や大会後の連携についての検討	○アクション&レガシープランを踏まえた取組の検討 ・実践及びレガシー検討 ○オリンピック・パラリンピックに関するスポーツイベント等の検討・実施 ・小学生タグラグビー大会 ・スクラムフェスティバル ・アスリート交流事業 ・障害者スポーツ体験事業 ・26市連携によるポッチャ大会 ・府中調布三鷹ラグビーフェスティバル ・車いすバスケットボール国際大会対応 等 ○スポーツボランティアの育成 ○関連団体との連携による機運醸成事業や大会後連携についての検討	○アクション&レガシープランを踏まえた取組の検討 ・実践及びレガシー検討 ○レガシーを見据えたオリンピック・パラリンピックに関する事業の検討・実施 ・小学生タグラグビー大会 ・スクラムフェスティバル ・アスリート交流事業 ・障害者スポーツ体験事業 ・26市連携によるポッチャ大会 ・府中調布三鷹ラグビーフェスティバル ・車いすバスケットボール国際大会対応 等 ○スポーツボランティアの育成 ○調布市障害者スポーツの振興における協議体の設置・運営
	事業費 (千円)	47,570	47,824	40,370
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0

計画コード	48	重点P	-	-
事務事業	FC東京等と連携したスポーツ振興等の推進			
所管部署	生活文化スポーツ部・スポーツ振興課・スポーツ振興係			
活動内容	計画目標	令和元年度		
		(計画)	(当初予算)	(決算・実績)
	○プロスポーツチームや選手等に親しむ機会を多く作り、市民のスポーツへの意欲・関心を高める ○スポーツ振興に加え、青少年の健全育成、市民の健康づくり及び地域振興等のまちづくりのための連携事業の実施 ○連携強化のため、定期的な交流の場を設ける	○サッカー教室の実施 ・あおぞらサッカースクール ・子どもサッカー体験教室 ○指導者講習会の開催 ○FC東京との情報交換や事業検討のための会議の定期的開催 ○FC東京に関する市民へ情報発信 ○地域のスポーツチームと連携した取組	○サッカー教室の実施 ・子どもサッカー体験教室 ・あおぞらサッカー交流会の実施 ○指導者講習会の開催 ○FC東京と庁内各課との情報交換や事業検討のための会議の定期的開催 ○FC東京に関する市民へ情報発信 ○地域のスポーツチームと連携した取組	○サッカー教室の実施 ・子どもサッカー体験教室 ・あおぞらサッカー交流会の実施 ○指導者講習会の開催 ○FC東京と庁内各課との情報交換や事業検討のための会議の開催 ○FC東京に関する市民へ情報発信 ○地域のスポーツチームと連携した取組
	事業費 (千円)	2,609	2,609	1,233
	債務負担行為等による用地取得費	0	0	0